

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年6月23日(2005.6.23)

【公開番号】特開2000-143772(P2000-143772A)

【公開日】平成12年5月26日(2000.5.26)

【出願番号】特願平10-318756

【国際特許分類第7版】

C 08 G 59/24

C 08 G 59/42

C 08 L 33/14

【F I】

C 08 G 59/24

C 08 G 59/42

C 08 L 33/14

【手続補正書】

【提出日】平成16年10月5日(2004.10.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

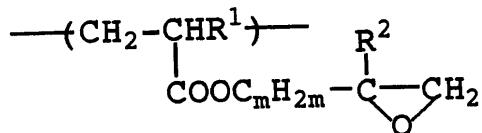
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(A) 下記式(1)

【化1】



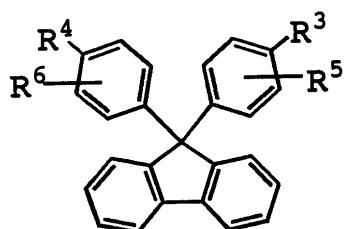
式中、R<sup>1</sup>は、水素原子または炭素原子数1~5のアルキル基を示し、R<sup>2</sup>は、水素原子、メチル基またはエチル基を示しそしてmは1~8の整数を示す、

で表される構造単位を30モル%以上含有してなる重合体または共重合体、

(B) 多価カルボン酸無水物および多価カルボン酸から選択される少なくとも1種の化合物並びに

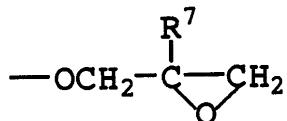
(C) 下記式(2)

【化2】



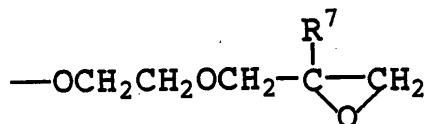
ここで、R<sup>3</sup>とR<sup>4</sup>は、互いに独立に、下記式(3)

## 【化3】



ここでR<sup>7</sup>は水素原子、炭素数1～5の炭化水素基またはハロゲン原子である、  
で表される基および下記式(4)

## 【化4】



ここでR<sup>7</sup>の定義は上記に同じである、  
で表される基よりなる群から選ばれる基であり、そしてR<sup>5</sup>およびR<sup>6</sup>は、互いに独立に、  
水素原子、炭素数1～5の炭化水素基またはハロゲン原子である、  
で表される、エポキシ基を有する化合物、  
を含有してなることを特徴とする硬化性組成物。

## 【請求項2】

保護膜形成用である請求項1に記載の硬化性樹脂組成物。

## 【請求項3】

請求項1に記載の硬化性樹脂組成物の塗膜を基板上に形成し、次いで加熱処理すること  
を特徴とする保護膜の形成方法。

## 【請求項4】

請求項1に記載の硬化性樹脂組成物から形成された保護膜。

## 【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、硬化性組成物および保護膜とその形成方法に関する。さらに詳しくは、光デバイス用保護膜形成材料として好適な熱硬化性組成物および保護膜とその形成方法に関する。

## 【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、上記の如き保護膜等に使用できる新規な硬化性組成物を提供することにある。

本発明の他の目的は、保護膜として従来から要求される諸特性、具体的には、密着性、表面硬度、透明性、耐熱性、耐光性、耐薬品性、耐水性などを満たすと共に、下地基板であるカラーフィルターの段差を平坦化することが可能である光デバイス用保護膜形成材料として好適な硬化性組成物を提供することにある。

本発明のさらに他の目的は、本発明の上記硬化性組成物から保護膜を形成する方法およ

び形成された該保護膜を提供することにある。

本発明のさらに他の目的および利点は以下の説明から明らかになろう。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

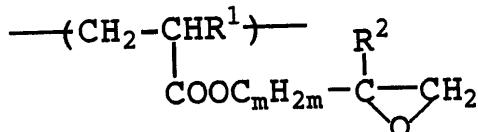
【補正の内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明によれば、本発明の上記目的および利点は、(A)下記式(1)

【化5】



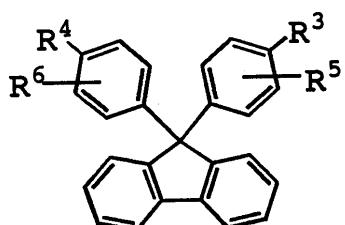
式中、R<sup>1</sup>は、水素原子または炭素原子数1～5のアルキル基を示し、R<sup>2</sup>は、水素原子、メチル基またはエチル基を示しそしてmは1～8の整数を示す、

で表される構造単位を30モル%以上含有してなる重合体または共重合体、

(B)多価カルボン酸無水物および多価カルボン酸から選択される少なくとも1種の化合物並びに

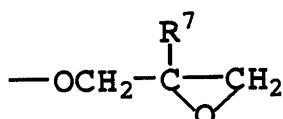
(C)下記式(2)

【化6】



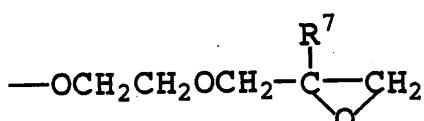
ここで、R<sup>3</sup>とR<sup>4</sup>は、互いに独立に、下記式(3)

【化7】



ここでR<sup>7</sup>は水素原子、炭素数1～5の炭化水素基またはハロゲン原子である、  
で表される基および下記式(4)

【化8】



ここでR<sup>7</sup>の定義は上記に同じである、

で表される基よりなる群から選ばれる基であり、そしてR<sup>5</sup>およびR<sup>6</sup>は、互いに独立に、  
水素原子、炭素数1～5の炭化水素基またはハロゲン原子である、

で表される、エポキシ基を有する化合物、

を含有してなることを特徴とする硬化性組成物によって達成される。

本発明によれば、本発明の上記目的および利点は、第2に、  
本発明の硬化性樹脂組成物の塗膜を基板上に形成し次いで加熱処理することを特徴とする  
保護膜の形成方法によって達成される。

本発明によれば、本発明の上記目的および利点は、第3に、  
本発明の硬化性樹脂組成物が形成された保護膜によって達成される。

以下、本発明の硬化性組成物について詳細に説明する。